地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践 ②

# 『仁和会総合病院の福祉医療実践』

一般財団法人　仁和会総合病院
常務理事　太田 敏夫

## 1.仁和会の歴史

### ■どのようにして仁和会病院が誕生したのか？その背景とは

終戦直後の昭和20年(1945年)八王子は空襲により焼野原と化し混沌としておりました。八王子から日野にかけては、医療施設もほとんどが焼失してしまっておりました。多くの被災者、傷病者が診療可能でありました日野重工業株式会社の厚生施設にも押しかけました。その日野重工の厚生施設は、関係官庁に救援を申し出て傷病者約五百名、延べ三千名の診療、治療に当たりました。当然のこととして、病院が必要であるとの機運が高まりました。明日に向かって復興、希望の灯となり、よりどころとなり、どなたでも利用できる病院を創ろうとの熱い志の方々が集まりました。そこで経営主体の「財団法人」を設立しようと、当時日野重工(現日野自動車工業）の代表取締役社長を務めておられた大久保正二氏らが地元の有志に呼び掛けて資金を集め、昭和20年(1945年）11月財団法人設立のための「財団法人仁和会設立趣意書」が東京都長官に提出されました。早くも3か月後の昭和21年(1946年）2月15日に東京都長官から認可され仁和会が設立されました。日野重工(現日野自動車）の厚生施設を病院として利用させていただき、直ちに仁和会日野病院として開院、診療を開始しております。

①日野重工業株式会社全景（1942 年）
（写真提供：日野自動車株式会社）

### ■仁和会設立趣意書

仁和会が創設されたいきさつについては、仁和会「設立趣意書」(仁和会の原点であり、魂であり、バイブルであります）に詳しく記されております。

その「設立趣意書」によりますと、『戦争の終結ニ伴ヒ、全国民ハ、戦塵ヲ浄メ総力を挙ゲテ、平和新日本ノ創建ニ当タラントスルノ時、吾人ノ特ニ憂慮スルハ、全国民ノ戦時ニ於ケル心身ノ過労ト食料事情に依ル体位ノ低下ナリ、今ニシテ之ガ恢復ニ万全ヲ尽ストコロナクバ、建設

ノ理想モ遂ニ砂上ノ楼閣ニ終ルベシ

然モ我国民ハ文化水準ノ高度ヲ信ジ居ルト雖モ、未ダソノ家庭乃至国体ニ於ケル保健、衛生ニ関シテハ兎角閑却セラレアル実情ニアリ、ソノ結果結核ノ浸潤、疾病ノ蔓延ハ常ニ国民生活ノ脅威ヲ形成シ居レリ、随テ保健、衛生思想ノ普及高揚ト、之ニ併行スル医療施設ノ拡充ヲ図リ国民体位ノ向上ヲ促進セシムルハ、邦家喫緊ノ要務ト言ハサルベカラズ、偶々八王子地区ハ、戦災ニヨリ恢復容易ナラザル損害ヲ蒙リ医療、衛生施設亦ソノ全部ヲ灰燼に帰シタル為、同地区一般民衆ノ困苦ハ筆舌ニ尽ク難キモノアリ、現ニ後記日野病院ハ、戦災直後関係官庁ニ救援ヲ申出、進ンデソノ傷病者ノ収容、診療ニ尽力シ、今日迄ノ受療者約五百名、延人員三千名ヲ数フルニ至レリ、本設立者之等ノ実情ニ鑑ルトコロアリ、曩ニ東京都南多摩郡日野町日野重工株式会社の厚生施設トシテ創設セラレ、優秀ナル設備ト多量ナル資材ヲ有スル同町豊田所在日野病院ヲ譲受ケテ、前記邦家ノ要請ニ応エ、逐次別紙寄付行為記載ノ目的（注参照）ニ向ツテ、健民報国ノ実ヲ挙ゲントスルモノナリ。

昭和二十年十一月

まさに仁和会の原点であり、ここから仁和会が始まりました。

## ■寄付行為

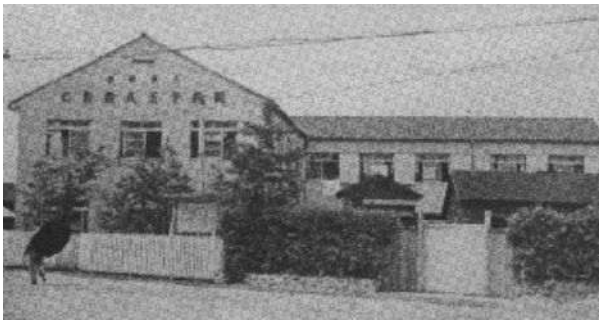
設立時の寄付行為では「本会は健民報国の趣旨に基づき保健、衛生思想の普及、窮民の施療、一般診療並びに医学、薬学、食養学の研究助成を持って目的とする」となっております。

この目的は仁和会の不変の精神であり、その理念は現在に至るまで80年間、その目的、基本理念、基本方針としてひき継がれております。

仁和会の設立は、単なる医療施設の創設にとどまらず、終戦直後の混乱と希望が交錯する時代の中で、地域社会全体が力を合わせて立ち上がった象徴的な出来事でした。幾重にも重なる困難をものともせず、地域の方々、医療従事者、そして多くの支援者の情熱のおかげでした。

## ■仁和会の歴史

仁和会としての歴史は1946年2月15日、日野重工の厚生施設を譲りうけ、日野市に仁和会日野病院（50床）を開院したことから始まります。翌年には仁和会病院（以下豊田病院）と改称し要望の多い歯科を増設しております。1947年八王子市明神町の（現在地）に新たに八王子診療所を開設しております。1950年にはその八王子診療所を拡張し八王子病院となり（27床）、1956年にはさらに増床して54床となっております。1940年代は国民病ともいわれた結核患者が多く、結核治療に力を入れていた仁和会には多数の患者がつめかけました。豊田病院は外科では人工気胸術、人工気腹術のみならず、胸郭成形術から肺切除術など高度の手術が行わ



②開院当時の仁和会八王子病院

③豊田病院玄関前

れています。結核以外の患者も多く1954年には豊田病院は増改築を重ね158床となっています。外傷による救急患者も多くなり、1958年に、八王子消防本部より救急病院の指定を受けています。増改築を繰り返しフル回転であった豊田病院は次第に老朽化が進んできておりました。

④八王子病院での歳末無料診療風景（1955 年）

八王子病院も然りで増改築が進められ1956年には八王子病院本館は鉄筋コンクリート4階建となりました。さらに増築を重ねて1961年には八王子病院が完成いたしました。そこで八王子病院と豊田病院は経営資源を八王子病院に集約し、効率的に運営するために1962年に豊田病院を閉鎖して、八王子病院に吸収、そこで八王子病院が243床となりました。1962年に八王子病院は総合病院の指定を受けています。

⑤鉄筋コンクリート造りとなった八王子病院（1956 年）

1965年には救急指定告示病院になりました。1970年には仁和会八王子総合病院と名称変更して今日に続いております。交通事故、外傷、急病の急性期病院、救急病院として救急車による搬送も多く、東京医科歯科大学（現東京科学大学）外科などより多くの医師の派遣もあり、呼吸器、消化器外科、一般外科手術も多く、地域の基幹病院として日夜活発に活動しております。1980年には結核も内科的治療が主体となり、結核の入院患者の減少に伴い結核病棟を閉鎖し226床としております。

⑥ 1970 年仁和会八王子総合病院と名称変更

予防医学にも早くから取り組み、1959年には短期人間ドックを開始しております。1993年には人間ドック・検診部門の改修に伴い健診センターと名称変更しており、193床となりました。

1995年に訪問看護ステーション、2000年に介護支援センター花を開始し、訪問リハビリテーションなど在宅医療にも積極的に取り組んでおります。

**■福祉医療の取り組み**

このように仁和会の活動は、無医村への巡回診療など広範な地域をも巻き込んで広がり、多様な医療、福祉、看護、介護サービスを展開し

てきました。なかでも特筆すべきものには、福祉医療があります。基本理念にも「良質かつ信頼性の高い医療、看護並びに介護サービスを提供することにより、地域の皆様の健康保持並びに福祉に積極的に寄与する」とあります。仁和会設立時から窮民の施療は重要な目的の一つでした。当時は保険証もない困窮者も多い時代でした。1950年12月より疾病の治療と共に経済的にも安心して年が迎えることが出来るようにと歳末無料診療が開始されました。多くの方が列をなしたとのことでした。無保険者の多かった時代には大きな意味のあることでした。国民皆保険となったのがようやく1961年4月からの時代でした。1977年からは無料低額診療が始まり、都内では現在でも一番の取り扱い施設となっております。

⑦歳末無料診療の懸垂幕がかかった仁和会総合病院

なお、介護保険の2000年開始時の訪問入浴サービスに先駆けて1987年から寝たきり老人の入浴サービスを開始し、重度心身障碍者(児)歯科診療などを行ってまいりました。

**■病院の建て替えと病院機能評価**

1997(平成9)年11月に病棟増改築として(第1次)工事が着工され(耐震構造、地上5階、地下2階)、2001(平成13)年3月に完成しました(竹中工務店が請負)。

2001年の病棟増改築工事完了に伴い、一般病棟193床のうち74床を介護療養病棟に転換し、急性期病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟とシームレスに療養環境が整備されました。

また、医療の質を高めるための一環として、2006年には日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、認定施設となりました。

⑧新病棟

次に外来棟新築を行いました。建築資金を調達するのに病棟部分の空中権を利用した等価交換方式(病棟部分の空中権を外来棟の高層部分で利用)を用いて新外来棟新築を行うことといたしました。外来棟の上層階に高層マンションを建設するという、当時、日本で初めてのスキームでした。我々に続いた施設もございましたが、最近は「医療危機」ともいわれるように、老朽化した病院の改築が、資材の高騰や人手不足により、中止になり、さらに閉院となるケースが見られてきております。

建設の間、子安神社様のご厚意により病院の前にある葵記念館を仮診療所としてお借りして開設することができました。これにより2006(平成18)年11月に新外来棟新築として第2次工事を着工することができました。2009(平成21)年11月に完成(免震構造、地下1階、地

上21階、病院は1～4階を使用）となりました（大林組が請負）。完成により、一般病床86床、介護療養病床71床となりました。

2010年には仁和会クリニック大和田を開院（その後、使命を果たし2020年閉院）しております。

⑨新外来棟

**■公益法人改革により**
**2013年4月に一般財団法人仁和会となる**

公益法人改革があり2013（平成25）年4月一般財団法人仁和会となりました。寄付行為は「一般財団法人仁和会和会定款」として引き継がれております。仁和会の目的、基本理念、基本方針、事業と条文化されております。ハード面、ソフト面の充実、災害への備えと、安心・安全な医療供給体制の強化に努め、持続可能な施設として地域に信頼される拠点となりました。MRI、電子カルテなどの新たな医療機器やシステムの導入も進み、より迅速かつ正確な診断・治療が可能となりました。

## 2　当院における相談室の位置づけ

当院では、患者およびご家族が抱える医療面・生活面・社会的課題に対応するため、「患者支援センター」を設置しています。患者支援センターには、医師1名、医療ソーシャルワーカー（MSW）4名、看護師3名が配置されており、多職種が連携しながら患者支援に取り組んでいます。

当院は急性期から回復期、慢性期までを担うケアミックス型の病院であり、患者の病状や生活状況に応じた幅広い支援が求められます。そのため患者支援センターでは、入退院支援、地域連携、医療費や療養費に関する相談などを中心に業務を行っています。

## 3　相談内容の特徴

患者支援センターに寄せられる相談内容は多岐にわたりますが、特に入院相談、退院後の生活や退院先に関する相談、各種制度の利用に関する相談が多く見られます。

ケアミックス型の医療機関であるため、急性期治療を目的とした入院だけでなく、リハビリテーションや慢性期療養を目的とした入院相談も多く寄せられます。そのため、患者の病状だけでなく、生活環境や家族状況を踏まえた入院調整を行うことが重要になります。

また、退院後の生活に関する相談も多く、特に高齢患者の場合には、自宅での生活が可能かどうか、介護サービスの導入が必要か、施設入所が望ましいかなどについて、ご本人やご家族と十分に話し合いながら支援を行っています。

加えて、地域連携の窓口として、地域の医療

機関や介護事業者との情報共有や相談対応も行っています。また、経済的な事情により医療費の負担が困難な患者に対しては、無料低額診療事業の案内を行い、安心して医療を受けることができるよう支援しています。

## 4　MSWの役割

医療ソーシャルワーカーは様々な社会的課題の相談をお受けしておりますが、特に以下のような支援が多くなっております。

まず、入退院に関する支援です。入院に関しては、事前面談からしっかりとアセスメントをし、患者や家族が入院に不安を抱かないよう、また入院後に適切に対応できるようしていきます。退院支援については患者が退院後も安心して生活できるよう、医師や看護師、リハビリスタッフなどの医療職と連携しながら退院計画を立てています。患者の生活環境や介護力を把握し、必要に応じて介護サービスや施設利用の調整を行っています。

次に、社会資源の紹介と活用支援です。患者やご家族が利用可能な制度やサービスについて情報提供を行い、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域の医療機関、介護サービス事業者などと調整をしています。最近は、八王子市で重層的支援体制整備事業の委託を受けて社会福祉協議会が運営している「はちまるサポート」というCSWが常駐している相談窓口とのやりとりも増えてきました。幅広い年齢層の地域での困りごとに対応しているCSWとの連携は、地域に根付いた病院の在り方としてとても重要だと考えます。無料低額診療や受診、入院について相談されることもあれば、当方から地域の困りごとに対して相談し、対応していただくこともあります。

以上のように、様々な機関や施設等と連携を取りながら、患者や家族が安心して医療を受け社会生活を送ることが出来るよう支援を行っています。

## 5　地域での活動と今後の課題

当院では地域社会への貢献活動として、養護老人ホームにおける健康教育の実施や、地域包括支援センターと協働した介護予防教室、ケアカフェの開催などに取り組んでいます。

これらの活動は、地域住民の健康意識の向上や介護予防の推進につながるものであり、地域住民と医療機関とのつながりを深める役割も果たしています。

一方、地域での役割を意識したとき、当院の機能としては訪問診療の体制の充実が課題として挙げられます。高齢患者の増加に伴い、在宅療養支援の重要性が高まっているなか、訪問診療の体制を充実することで急性期から慢性期の幅広い患者様への対応が当院にて可能になります。

自院の機能の拡充と地域の医療・介護関係者、行政との連携を通じて、患者が住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくり、地域包括ケアシステムの構築にも寄与していきたいと考えています。

⑩ 80周年記念キャラクター誕生